

No.188

# SOPHIANS Now



ソフィアズ ナウ Autumn 2020



## コロナだからこそ広がる

## ——ソフィアンの輪

四谷キャンパスでは、相変わらず入構制限が続いています。

学内の施設を使わざるを得ない学生がたまに来校、マスク着用、検温などのチェックを経て学内に消えていきます。

異常な事態ですが、しかしできることがあります。

ソフィア会も、こうした事態だからこそできることがあります。

# 特集 コロナだからこそ広がる ソフィアの輪

今年になって突然沸き起こり、瞬く間に世界中に拡大していった新型コロナウイルス。人々の生活も、企業活動も大打撃を受けています。大学は軒並み“ロックアウト”状態に陥り、上智大学でも、3月の学位授与式も4月の入学式も中止。現在もオンライン授業が続いています。課外活動もすべて中止を余儀なくされ、新入生が夢見ていたキャンパスライフは幻となってしまいました。

## ■ オンラインがもたらす win-win の関係

しかし、コロナの影響を受けているのは自分ひとりだけではありません。世界中の人が、多かれ少なかれ、何らかの形で影響を受けています。まず、ひとりでネガティブにならないことが重要です。むしろ、このウイズ・コロナの時代に積極的に適応していくべきであり、今求められるのはウイズ・コロナ時代への適応力だと指摘する声もあります。

オンライン授業にしても、「入構禁止だから」、「対面授業ができないから」というネガティブなとらえ方ではなく、むしろ積極的にそのメリットを生かしていくべきだと、上智大学の曄道佳明学長は指摘します。いうまでもなく、オンライン授業はネット環境さえあれば、それぞれ世界中どこにいても受けたい授業が受けられるわけです。「オンラインは教育の自由度を高める」というのが曄道学長の主張です。



オンラインで情報発信の場となったソフィアズクラブ（秋季全国代議員会）

コロナで多くの企業がリモートワークを取り入れるようになりましたが、それによってオフィススペースの削減が可能となり、通勤費や無駄な出張費が削減できるようになりました。コロナがもたらしたリモートワークによ

って時間やコストが削減できるわけです。そのメリットの方に目を向けるべきだという見方です。

ソフィア会も、活動拠点のソフィアズクラブが閉鎖されていることから、打ち合わせや委員会はオンライン会議ツール「Zoom」を使用するようになりました。これによって、多くの人が、そのメリットを実感しているはず。会議に合わせて、四谷に時間をかけて出かける必要がありません。ソフィア会は基本ボランティアで運営されていますので、交通費もかけずに会議に出席できるというのは、些細な話かもしれませんが個人的にはメリットです。

いくらボランティアといっても、代議員会などに遠方から飛行機、

新幹線で会議に出席する方には規約に基づきある一定の費用は支払われますので、このZoomによるオンライン会議はソフィア会にとってもメリットがあります。遠方からの参加者への交通費を支払わな

くてよくなり、オンラインはソフィア会にも会議の参加者にも、ウインウイン（win-win）の関係をもたらしているのです。

それに気づかせてくれたのは、実はコロナなのです。コロナがなければ、このような社会の“仕組み”“劇的な変化はありえなかったはず。コロナに積極的に適応したというより、むしろ仕方なくという面は否めないでしょうが、このメリットはコロナが収束しても享受していくべきでしょう。

オンライン授業も、対面ができないから仕方なくというのではなく、コロナが収束しても続けられていくべき仕組みです。ソフィア会はすでに、オンライン留学をする学生に奨学金を授与することを決めています。



常任委員会も Zoom で（ソフィアズクラブの会議室が使えないこともあります）

## ■ 新たな可能性を生み出した Net de ASF

このオンラインの力を、如実に示したのが5月31日の「オールソフィアの集い（ASF）」でした。ASFは、例年四谷キャンパスには1万人を超える卒業生とその家族、そして教職員や学生が集うソフィア会最大のイベントですが、今年はコロナで窮地に陥りました。

しかし、その窮地を好転させたのは実行委員会の英断でした。オンライン・ホームカミングデー。つまり、世界中のソフィアンたちがオンラインでつながる「Net de ASF 2020」という新しい形を生み出したのでした。

Net de ASF 2020 の実行委員長を務めた豊田圭一さん（1992 経

## 教育の自由度を高めるオンライン教育

上智大学の曄道佳明学長は、9月5日に開催したソフィア会の秋季全国代議員会において、従来のような対面授業ができない状況を嘆きつつも次のように語っています。

「オンライン授業は教育の自由度を高め、学生も学習の自由度を高めることができるというメリットもあります。これまでのグローバル化、デジタル化という動きに合わせ、新型コロナによる社会変化もあります。全世界の若者がすべてこの問題に向き合っているわけで、のちにコロナ時代の人は強いといわれるような学生を育てていきたいと考えています」。

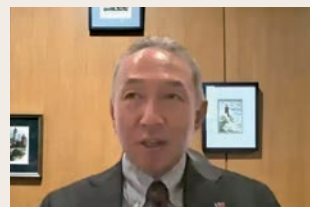
オンライン授業については対面授業ができないための代替策としてのとらえ方が多いですが、決してそうではない。むしろ、メリットがあるという見方です。

曄道学長は日本経済新聞の「コロナが変えるキャンパス 大学トップに聞く」というインタビュー・シリーズでも同様に、「オンライン授業は教育の自由度を高め、多様な学びや大学のグローバル化にも

つながると前向きに受け止めている」と述べています。オンライン教育は現在の“硬直化した高等教育”を一変する可能性がある」と指摘しているわけです。

上智大学のように、海外留学の比率が高い大学はなおさらで、低学年のときは四谷キャンパスで基礎をしっかり学び、その後留学して現地の大学で学びながらもオンラインで上智大学の授業も受けることができる。オンライン教育は、そのような学び方も可能になるといいます。

オンライン教育は従来の対面教育の単なる代替えではなく、新しい学習スタイルをもたらすものである。これは学生に限ったことではなく、教師も海外で研究しながら、日本の学生にオンラインで教育することが可能になり、つまりは教育の自由度が向上することになります。



## こういう状況だからこそ、最善を尽くす

豊田圭一（2020年ASF実行委員長、1992経経）

2019年に引き続き、2020年もASF実行委員長を拝命しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年は大学キャンパスでの開催ができない事態になりました。

その決定もギリギリだったため、当初は「延期」という考えも出ましたが、「こういう状況だからこそ、最善を尽くして何かやろう！ポジティブな姿勢を見せよう！」と思ったことに加え、オンラインで実施をすることで、これまでキャンパスでの開催ではなかなかできなかった「世界のソフィアンが繋がる」ということができるかもしれないと頭を切り替え、1ヶ月半という短い準備期間ではありましたが、委員会の仲間たちやソフィア会の皆さんと協力をしながら、国内外の様々なソフィアンにもご登壇いただき、当日は7時間半というオンライン生配信でASFを実施しました。

そして、結果的には12000人を超える皆様にご覧いただくことができましたし、世界中のソフィアンから「いつもはキャンパスに行くことができなかったけど、今回のオンライン開催で上智大学との繋がりを感じました！ありがとうございました！」という声を多数いただくことができました。



コロナの影響で様々な活動ができない状況ではありますが、立ち止まることなく、今できることで最善を尽くす！それを体現できたイベントになったのではないかと自負しています。

経）は「こんな時だからこそ、世界中のソフィアンたちを繋げて何か発信できないか、すごいことはできなくても、何か最善を尽くしたことをやろうよ、そんな思いで、ASFの実行委員たちやソフィア会のメンバーたちと毎週のようにオンラインで打ち合わせを重ね、世界中のソフィアンたちがオンラインでつながるイベント「Net de ASF 2020」を開催することにしました」と語っています。まさに、ソフィア会のスローガン「つなげよう、広げよう、深めよう、ソフィアンの絆」を実践したASFというわけです。



Net de ASF を考え出したのも Zoom 会議で



オンラインASFのパワーを示したSophians Around the World アメリカ編

当日は、延べ1万2,000人の人が視聴したという結果がでています。実際にこのNet de ASF 2020に参加した人はお判りでしょうが、「ソフィア会連携企画 Sophians Around the World」では、日本時間の午前10時半からのアメリカ編、午後1時からのアジア・パシフィック編、そして午後4時からのヨーロッパ編と、太陽の動きに合わせてグルッと地球を1周する形で世界各地のソフィアンが登場、世界各地の状況をリアルに語ってくれました。金祝、ルビー祝、銀祝、銅祝の方々も国内各地から参加、それぞれの思い出を語りました。まさにオンラインでなければ実現できなかった企画といえるでしょう。

かつてのように四谷キャンパスだけで行われていたASFでは、こうしたプログラムにいくつも参加するのは無理でした。どこかの会場で同様のトークショーが行われたとしても、それを視聴できる人は数十人、多くて数百人で、延べ人数にしてもとも1万2,000という大人数が視聴することはできなかったでしょう。

このホームカミングデーのオンライン配信という形は、国内の大学の中でソフィア会が初だといわれています。その成功を知ったのかどうか、その後他の大学でも同様の企画が次々と行われ、秋の大学祭は軒並み「オンライン学園祭」となりました。

自宅に居ながらにして“つながる”のがオンラインのメリット

上智大学のソフィ

ア祭はもちろんのこと、東京大学の「駒場祭」、慶応義塾大学の「三田祭」もオンライン開催でした。ソフィア祭が行ったミスコンは、新しい姿としてNHKやTBSなどでも紹介されていましたが、三田祭ではVR（仮想現実）を使って未来のキャンパスを体験するなど、“一歩進んだ”オンライン学園祭を試みたようです。

コロナによって、かつてはややもすると模擬店祭と揶揄されがちだった学園祭の姿も変わりました。



キャリア対談は質問も受け付ける双方向で

### リアルとオンラインのハイブリッド

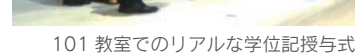
コロナによって、私たちの生活が打撃を受けたことは確かです。もちろんソフィア会も現在のところ、かつてのような活動ができなくなっています。しかしその一方で、このように新しいやり方、それによる新しい価値が生まれていることを忘れてはなりません。



9月の学位授与式は李聖一カトリックセンター長がスクリーン上の卒業生に祝福

続いて、これはソフィア会の行事ではありませんが、コロナ時代の新しいイベントの例として、上智大学が9月18日（金）に行った9月期の学位授与式（卒業式）を紹介したいと思います。国際教養学部など英語のみで学位を取得できる学部や研究科の卒業生を対象に行う卒業式で、式辞や祝辞などすべて英語で行われるものです。

上智大学は午前10時から、四谷キャンパス6号館101教室の式典会場には登壇者と学位記を授与される学生の代表および謝辞を述べる学生のみが入場。そして、Zoomを利用したオンライン参加の卒業生を結び式典を行いました。101教室のステージには暁道学長、佐久間勤上智学院理事長、そして卒業生を迎える鳥居正男ソフィア会会長などが登壇、通常の卒業式のように祝辞を述べました。



101教室でのリアルな学位記授与式

途中でZoom参加している卒業生や職員からのメッセージが読まれ、また学生時代の思い出や卒業にあたっての抱負を書いたボードを持った卒業生の写真が流れるなど、オンラインを感じさせない臨場感あふれる式典となりました。学位授与式では四谷

とブラジルをつなぐオンラインならではの演出も取り入れられました。まさにオンラインのメリットです。

この一連の企画や演出、映像配信などを担ったのが、鈴木達哉さん（2020 院前理理、2018 理情報）と福田恵人さん（2018 経営）、そして在学生有志による総勢 10 人のボランティアチームです。

鈴木さんが「5月のASF（Net de ASF）で映像配信を担当した経験を活かしました」というように、Net de ASF をさらに進化させたのがこのリアルとオンラインのハイブリッド型卒業式といえるでしょう。

この「ハイブリッド」が今後のキーワードのような気がします。その場所に集まれる人は集まる。しかし海外も含めて遠隔地の人は「行けないから参加しない」ではなく、オンラインで参加する。



オンラインで海外の卒業生にも学位記を授与

企業も同じです。たぶん、リアルとオンラインの二者択一の話にはならないでしょう。すべてリモートでカバーできることはなくても、しかし毎日毎日満員電車で会社に出かけ、わずか1時間の会議のために新幹線出張するというのは、正直言っておかしい話です。はっきりいえば、金と時間の無駄です。

去年までは、企業でもこんなに“あっさり”と無駄が削減できるとは思っていませんでした。企業も、コロナ禍からの緊急避難策で、禍を好転させることができると気づき始めているはず。それはソフィア会も同じです。

## ■ ニューノーマルの時代に向けて

しかし、きれいごとをいっても、コロナ禍はやはり深刻です。多くの企業は収益を悪化させており、新聞紙上には「大幅赤字」という文字が躍っています。仕事を失った人も多く、上智大学でも“困窮学生”への支援が緊急課題となっています。これに対し、ソフィア会も積立金を取り崩すなどして支援策を講じてきました。

コロナとの戦いはまだまだ続きそうです。予断は許されません。ただひとついえることは、単に昔の時代にそのまま戻ることはなく、新たな仕組み、スタンダードが確立されるニューノーマルの時代の

時代が訪れるということです。たとえば、企業においてはテレワークが当たり前になり、オンラインがさらに幅広く、高度に活用されるようになるでしょう。たぶん、それは間違いなことだと思われま



ニューノーマルの時代への対応を呼び掛ける鳥居ソフィア会会長

今、GAF A に代表される現在の勝ち組企業の日本法人ビルは、夜になると真暗になっているようです。実はその近くに伝統的な日本企業のビルがあって、そこは夜でも煌々と明かりがついているとの対比で、話題になっています。リモートワークが徹底している企業、つまりニューノーマルの時代にいち早く対応した企業と、旧態依然の仕組みをそのまま続けている企業の違いが、町の風景にも表れてしまっているのです。

暁道学長は、日本経済新聞のインタビューの中で次のように語っています。

「コロナは望まぬ経験でした。だが、今は予期しない変化、期待しない変化が次々と起こる時代です。従来の固定観念から抜け出し、厳しい時代を生き抜く強い基盤を持つことが、組織にも若い学生にも求められています。大学はコロナ後の時代には物事をどう捉え、行動するのかを考える機会と道筋を提供する必要があります」

大学は、コロナ後の時代、ニューノーマルの時代に向けて態勢を整えているようです。ソフィア会の鳥居会長も、9月の学位授与式で卒業生、つまり新しいソフィア会員に対してこのように述べています。

「コロナウイルスがもたらしたのは、変化のスピードです。典型的な例がテレワークです。『働き方改革』の旗のもと、できない理由探しをしていたところにウイルス感染で否応なくテレワークをせざる得なくなって、やってみると毎日満員電車で長い時間をかけてオフィスに行かなくても仕事は回ることがわかってきました。講義を担当される先生方のご努力と学生の前向きな姿勢により、大学の講義もオンラインで教育が進み、オンライン会議も一般化しました。残念ながら、コロナとの戦いはまだまだ続くこととなります。いつか収束したとしても、コロナウイルス前の生活に戻ることはありません。ニューノーマルは、仕事をどこでどのようにするかは個人の自由となる、その代わりに成果についての責任を負うこととなります」

ソフィア会も、ニューノーマルの時代に向けて確かに舵を切り始めています。

## コロナ禍でも人の暖かさを感じることができる

鈴木達哉（2020 院前理理、2018 理情報）

参加者が少しでも良い体験を得られるようにと、在学生を含めた10名のスタッフで試行錯誤の日々でした。従来の形の再現や、オンラインでの新しさにこだわりすぎず、今できる一番の式を目指せたことが良かった点です。

メッセージ動画を企画しましたが、これには総勢100名近くの学生や大学関係者の方々に協力いただき、コロナ禍でも変わらぬ人の暖かさを感じることができました。私たちに何ができるだろうと悩み続けましたが、物理的な距離を超えて皆さんの気持ちをつなげるお手伝いができていれば嬉しいです。



学位授与式などを演出した学生と卒業生。前列右端が福田さん、その隣が鈴木さん

## 「参加した実感」をオンラインで作り出す

福田恵人（2018 経営）

ほとんどのイベントがオンライン開催されている現在。学位授与式、入学式の配信で意識したことは、「参加した実感」をどのように作り出すかでした。

一生に一度の機会、見るだけでなく参加した実感がほしい。

考えた結果、参加者の顔が会場のスクリーンに映る方式を採用しました。

式中にはオンラインの代表学生に暁道学長が声をかけ、学生が笑顔で応じる様子も見られました。

実際に集えなくても、特別な時間を共有できる。

新たな式典の形を作り出したのではないかと思います。

# オンライン時代だからこそ、ソフィア会を身近に

## ソフィア会 Web サイトにすべての情報があります

自宅に居ながらにしてソフィア会の動きがわかる——

ソフィア会のWebサイト（ホームページ）には、世界中のソフィアンが今何をしているのか、これから何をしようとしているのか、そんな情報が満載です。年間平均500本以上の記事がアップされており、もちろん過去の情報もそのまま蓄積されています。無理して出かけなくても、手元のパソコンやスマートフォンで「ソフィア会」と検索してください。



- 1 事務局とのコンタクト・ポイントです。ソフィア会に対する各種お問い合わせ、住所変更などはこちらから。記事掲載依頼の窓口もあります
- 2 ソフィア会の基本情報が分かります。世界中でどのような団体が活動しているのか。どのような委員会があり、何をしているのか。
- 3 ソフィア会にとって、その時重要と思われること、アピールしたいことがここにスライド形式で表示されます。注目してください。
- 4 新着情報。記事はまずここに表示されます。新しい記事が来ると押されてどんどん後ろにまわりますが、原則2週間はここに表示されます。
- 5 横のバーは、ソフィア会の定例ページ。イベント情報や過去のソフィアンズナウもここでデジタルブックとしてみるができます。
- 6 新着情報で2週間を経たものは、ここに分類されて掲載されます。「ニュース」、「イベント」、そして「学部・学科同窓会」、「地域・各種ソフィア会」、最後にその他の「記事」という項目で、後から検索しやすいように工夫しています。
- 7 ソフィアンの広場。各登録団体はソフィア会のサーバを使って自由に情報発信できます。
- 8 Sophiaグッズの販売コーナーがあります。アマゾンなどのネットショップもここ経由で購入すると、一定金額がソフィア会に寄付される仕組みです。
- 9 ここにもWebサイトの別な入り口があります。意外と検索が多いのが「求人」、「訃報」。
- 10 「サイトポリシー」、「個人情報保護に関する基本方針」、「政治に関するガイドライン」など、このサイトに対するソフィア会の基本方針が明記されています。

## 将来ビジョン推進体制が整う

ソフィア会は9月5日(土)、2020年度秋季全国代議員会を開催しました。しかし今回は、新型コロナウイルスによる感染拡大を考慮して従来のような対面形式では行わず、電磁的投票およびオンライン併用形式での開催というこれまでにない全国代議員会となりました。大学が入構制限されていることから、会長ほか限られた数名の発表者がソフィアズクラブに集合。多人数を対象にしたWeb会議システム「Zoom ウェビナー」によって議案などを説明、審議する形です。質問は事前に受け付け、議事議決も事前にオンラインまたは郵便で行いましたが、当日は多くの代議員が自宅などからオンラインで参加しました。

### ■ 終身会費(同窓会費)改定は当初目標をクリア

代議員会は池尾茂副会長の司会  
で進行、最初に戸川宏一会長が開  
会挨拶を行いました。



戸川前会長による開会挨拶

戸川会長はまず、ソフィア会による新型コロナウイルス感染拡大による上智大学緊急学生支援を紹介。続いて、ソフィア会会長としての3年3か月を振り返りこう述べました。

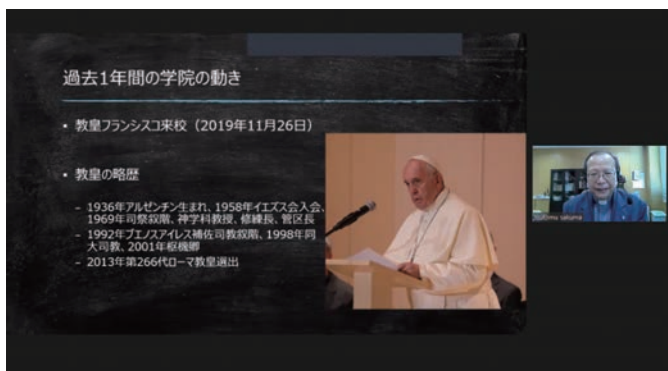
「会長としての私の使命、解決すべき課題が2つあったと思います。ひとつは、同窓会費を2倍にすることを2017年代議員会で決議しましたが、これを滞りなく実行することで。今年値上げ後初めて4年次の学生から同窓会費の納入が行われましたが、目標通り1億3,000万円を確保できました。

もうひとつは、この値上げ後の収入を最大限に活用するために、具体的なソフィア会の将来計画を立て、それを実行に移すことでした。そこで、常任委員会に将来ビジョン検討委員会を立ち上げて具体的な計画を立て、各委員会において具体的な実行計画に落とし込むことができました」

続いて、上智学院の佐久間勤理事長、上智大学の曄道佳明学長から来賓挨拶をリモートでいただきました。

佐久間理事長は用意したスライドを示しながら、過去1年間の上智学院の動きを紹介。その中で、特に強調したのは2019年11月26日の教皇フランシスコの来校でした。教皇の「上智大学は常にヒューマンズ的、キリスト教的、国際的というアイデンティティによって知られてきました。上智大学の学生の中に、何が最善なのかということ意識的に理解したうえで、責任をもって自由に選択するすべを習得せずに卒業する人がいてはなりません」との言葉を、卒業生へのメッセージとして伝えました。

曄道学長は、ソフィア会による学生への緊急支援や募金活動に感謝するとしたあと、「新型コロナウイルスの影響で、春学期は



佐久間上智学院理事長がフランシスコ教皇の来校を振り返る

2019年度収支決算書 自2019年4月1日～至2020年3月31日

(単位:円)

項目	2019年度予算	2019年度実績
<b>【収入の部】</b>		
1 終身会費(同窓会費) (注1)	20,000,000	24,430,000
2 入会金収入	80,000	20,000
3 維持会費(運営協力費)収入 (注2)	3,500,000	1,843,830
4 上智学院預け金利息	3,400,000	3,535,215
5 カード手数料収入	3,400,000	3,411,829
6 クラブ使用料収入 (注3)	2,800,000	2,296,800
7 その他収入(ネットショッピングなど)	680,100	438,420
一般収入小計	33,860,100	35,976,094
8 積立金取り崩し金額 (注4)	43,889,900	36,857,123
<b>収入計(a)</b>	<b>77,750,000</b>	<b>72,833,217</b>
<b>【経常支出の部】</b>		
1 事務局費		
人件費	8,320,000	8,336,915
通勤費	1,000,000	1,307,980
業務委託費	440,000	422,268
会議費(注5)	1,500,000	1,984,116
通信運搬費	850,000	650,399
印刷費	1,300,000	706,960
消耗品費	1,300,000	1,156,070
備品費	140,000	153,360
機材使用料	3,800,000	2,781,739
渉外費	200,000	4,860
銀行手数料	200,000	161,036
その他費用	1,680,000	1,559,625
<b>1 事務局費支出合計</b>	<b>20,730,000</b>	<b>19,225,328</b>
2 事業費		
① 広報費 (計)	(18,420,000)	(18,132,627)
会報印刷費	3,530,000	3,658,055
ウェブサイト費(ホームページ費)	3,790,000	3,434,572
未来募金・配送料見合	11,000,000	11,000,000
広報その他費用	100,000	40,000
② ソフィアズクラブ (計)	(7,670,000)	(7,220,699)
クラブ人件費	1,600,000	1,642,600
クラブ通勤費	250,000	199,520
クラブ業務委託費	200,000	176,640
クラブ管理費(夜間)	4,250,000	3,972,215
クラブ水道光熱費	700,000	576,098
クラブ備品費(注6)	410,000	550,968
クラブその他費用(注7)	260,000	102,658
③ 奨学金(ソフィア奨学金)	3,000,000	3,000,000
④ 募金委員会費(注8)	0	1,200,000
⑤ ASF運営費(注9)	5,000,000	5,325,011
⑥ ASC運営費	500,000	451,513
⑦ 地域・各種ソフィア会連携推進費(注7)	3,300,000	2,087,910
⑧ 国際委員会費(注7)	1,670,000	1,339,061
⑨ 学生支援事業 (計)	(9,810,000)	(9,626,942)
寄付講座費	1,000,000	1,000,000
学生課外活動支援費	8,000,000	8,000,000
その他の学生支援費(ソフィア祭現役支援等)	400,000	400,000
キャリア支援委員会費	200,000	0
キャリア支援プロジェクト	210,000	149,895
その他のキャリア支援事業費	0	77,047
⑩ その他事業費(金ルビー銀銅祝、ゴルフ)	2,120,000	2,012,063
⑪ 学部学科同窓会支援費	1,260,000	736,636
⑫ 常設委員会費(役員選考委員会・被頭彰者選考委員会)	500,000	405,076
⑬ NEXT100委員会費	400,000	300,684
⑭ オリンピック・パラリンピック支援委員会費(注7)	820,000	379,827
⑮ ビジョン委員会費(特別委員会)	400,000	251,640
⑯ ITインフラ支援費	1,150,000	1,138,200
<b>2 事業費支出合計</b>	<b>56,020,000</b>	<b>53,607,889</b>
3 予備費	1,000,000	0
4 基金積立金額(s)	0	0
<b>経常支出計(b)</b>	<b>77,750,000</b>	<b>72,833,217</b>
<b>当期収支(c=a-b)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>積立金(純資産)</b>		
期首積立額(d)	371,762,992	371,762,992
当期積立額(e=s)	0	0
当期収支差額の取り崩し(f=c)	0	0
当期積立金の取り崩し(g)	43,889,900	36,857,123
期末積立額(h=d+e-f-g)	327,873,092	334,905,869

(注1) 終身会費は、学部4年生(定員)と他大学卒業生数(予測)で予算計上していましたが、納入者数が予測よりも多く、443万円の増加になりました。(注2) 維持会費は、納入用チラシを年2回送付のソフィアズナウに同封していますが、2019年度は同封を1回にしたため、実績は184万円となりました。(注3) ソフィアズクラブ使用料は、2020年2月以降の利用者の減少により(大学入試期間中の閉館、コロナウイルス感染拡大による)、実績は229万円となりました。(注4) 2019年度は、積立金を4,388万円取り崩す予算でしたが、実績は3,685万円となりました。(注5) ソフィア会活動の活性化に

伴い、専門委員会の会議数が予測を上回ったため、実績は48万円の予算超過となりました。(注6) ソフィアズクラブの設備充実のため、空気清浄機、ワイヤレスマイク一式等の購入では、予算計上の際の機種より上位に変更したため、予算超過となりました。(注7) 2020年2月以降に実施を予定していました企画を、コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、中止・延期としたことによるものです。(注8) 大学10号館横に設置のザビエル像修復費(SOPHIA未来募金)の寄付による669万円から広告等収入137万円を差し引き、532万円となり、32万円の予算超過となりました。

すべてオンライン授業となりましたが、質を確保するためシラバスをすべて作り直すなど万全の対策を講じています」と大学の現状を紹介しました。

## ■ コロナ禍で2020年度予算は下方修正に

続いて、代議員会は審議に入りました。

戸川会長が、事前に配布された2019年度事業報告と2020年度事業計画を読み上げ、2019年度決算報告と2020年度予算案について濱口敏行副会長が以下のように説明。

「2019年度決算は、収入は終身会費が2,443万円、維持会費が148万3,830円で、一般収入は3,597万6,094円となり予算を約200万円オーバーしました。これに積立金取り崩しを加え、収入合計は7,283万3,217円となりました。

支出の部では、事務局費1,922万5,328円、事業費5,360万7,889円で、7,283万3,217円となり、予算を491万6,783円下回りました。これにより積立金は期首の3億7,176万2,992円から3億3,490万5,869円に減少しています。

一方、2020年度の予算についてですが、2019年度の春の全国代議員会で承認された「将来ビジョン」に、ソフィア会の今後5か年の収入支出計画と積立金計画が示されています。その初年度として2020年度の予算を策定しましたが予期せぬ新型コロナウイルスによる

影響があり、5か年計画は変更を余儀なくされました。具体的には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急学生支援として2020年5月に1,000万円、同7月に5,000万円の計6,000万円の寄付を実施。またソフィア会も学内の活動拠点であるソフィアンズクラブが使用できないなどで、さまざまな事業計画が実行できず、予算執行も計画どおり進まない状況が生まれました。

これにより当初予算を作り替える必要が生じ、当初計画予算案を各専門委員会が中心となり検討、当初予算を下方修正した修正予算案を策定しました。事務局費、事業費とも当初予算を下回り、緊急学生支援金6,000万円の支出などを加え、結果期末積立金は2億1,825万8,000円となる見込みとなりました」

## ■ 鳥居体制を確立

代議員会は続いて、申請のあった2つの団体の新規登録を承認。これによってソフィア会の登録団体は312となりました。また、新役員については前川征弘役員選考委員会委員長が資料に基づいて説明。これによって、新会長には鳥居正男氏（1970 外独）が就任することが承認されました。

以上、審議事項の説明を終了したのち、採決すなわち事前投票結果の報告・確認が行われ、いずれもソフィア会会則第16条の規定に基づき投票者の過半数が賛成したと認められ、議題は原案通り承認可決されました。

この時点で、佐久間理事長、畔道学長、サリ・アガスティン総務担当理事、久田満学生総務担当副学長、ウィリアム・カリー元学長、

早下隆士前学長など多くの大学関係者をはじめ、代議員178名、オブザーバー13名がこのオンライン代議員会に参加（視聴）されたことが司会から紹介されました。

その後報告に移り、「新常任委員について」では、鳥居新会長が鳥居体制を支える常任委員22名を発表。その選考理由について「会長任期として定められている2期6年に沿って、2期務められた委員の交代を考えました。また、ソフィア会の活動指針である将来ビジョンの提言を考慮、女性活躍の場を広く設けるよう心掛けました。その結果、女性委員の比率は28%から36%へと拡大、副会長も前期の女性1名に対し今期は2名が任命と、女性の活躍の場を広げました」と説明。

最後に戸川前会長が「私がここまでソフィア会に少しでも貢献できたとしたら、それは上智の諸先生、諸先輩から頂戴した母校への思いであり、みなさまの温かいご支援の賜物だと思っています」と述べ、「在任中、私を支えてくれた多くの人に感謝します」として、大学関係者、ソフィア会の各委員、特に今回一緒に退任する委員ひとりひとりの名前を挙げ、その功績をたたえながら感謝の言葉を述べました。

オンライン代議員会は初めての試みでしたが、途中若干の回線中断があったものの、ほぼ予定通り行われました。



退任する役員に感謝の言葉を述べる戸川前会長

## ■ 将来ビジョン推進を目的に専門委員会を改編

この代議員会で鳥居会長以下、副会長6名、監事2名、常任委員22名の新執行部体制が整ったことから、新体制発足後の常任委員会において新たに3つの専門委員会を設置、また職務分掌についても変更を行いました。

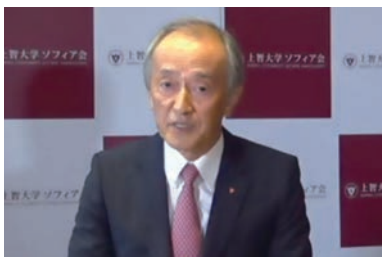
具体的には

- ① 総務委員会から「ソフィアンズクラブ委員会」を分離独立し、専門委員会として新設
- ② 奨学金等学生支援特別委員会を発展的に解消し「学生支援・奨学金委員会」を新設。総務委員会および事業企画委員会から業務の移管を受ける
- ③ 学部・学科同窓会特別委員会を発展的に解消し「学部・学科同窓会委員会」を新設。組織委員会から業務移管を受ける

これによって、専門委員会は12の常設委員会と、1つの時限の特別委員会の合計13となりました（NEXT100委員の発展的に解消と「社会貢献推進委員会」としての再スタートは、前体制にて決定し秋季全国代議員会にて報告済です）。

なお、将来ビジョンでは、「将来ビジョン実現に向けた委員会組織体制決定に関わる基本原則」として（1）目的指向の委員会組織、（2）適正規模の委員会責任範囲、（3）わかりやすい委員会間の分担、（4）柔軟な責任分担の調整、（5）委員長による連携調整の推進、（6）委員会数限度の設定、（7）フラット組織化の指向、（8）ソフィア会の役割変化に応じた委員会責務の変更、を確認しています。

今回の改編・拡充は、この基本原則に基づくもので、将来ビジョン具体的施策を推進する体制を強化するためのものです。



鳥居新会長による就任挨拶

### 1. 2020年以降のソフィア会の将来像の実現に向けた実施計画策定と一部前倒し実施

- 関係各専門委員会、特別委員会の委員長会議により、将来ビジョンの具体的な施策を立案し推進すると共に、その実現に向けた組織体制整備の検討を開始。
- 将来ビジョンの推進体制整備も視野に、「2020年度以降5年の事業計画のマイルストーン案」を策定し、2019年度秋季全国代議委員会において審議、承認。
- ソフィア会将来ビジョンを推進するため「つなげよう、広げよう、深めよう、ソフィアンの絆」のスローガンを決定し、ASFなどの行事、広報活動を通じて共有を開始。
- 将来ビジョンの推進体制で必要となる執行部門を支える人材発掘の具体的取組として、第1回「ソフィア会ASF・説明会」を実施し、約40名のソフィアンが参加。

### 2. 上智学院、大学との連携推進

- 「ソフィア会奨学金」として、長期交換留学生4名、短期実践型プログラム留学生11名に合計415万円を給付。「ソフィア会奨学金奨学生証授与式」を実施。
- 2019年秋季代議委員会において、1億円をソフィア会奨学金基金原資として、2020年度に大学に寄付することを決定。また募金委員会が主管となって募金を推進することを決定。
- 文化系21団体、体育会系43団体および1個人に対し、計800万円の支援金を贈呈。
- 大学キャリアセンターと連携し2020/2/16(日)OBOG交流会を開催(学生95名、OBOG8名参加)、学生/先輩との個別のセッションを実施。
- 「ソフィアン国家公務員と話そう」を開催。
- ASF(2019/5/26開催)に学生200名、ASC(2019/12/13開催)に学生40名の参加を得て、2つの公式行事を実施。
- 第一回日本語スピーチコンテスト「ザビエル杯」を開催。上智、青学・聖心・立教・

獨協の5校から14人の留学生が参加。

- ジョージタウン大学への留学生支援。
- 上智大学のシンボルであるザビエル像を、市ヶ谷キャンパスから四谷キャンパス10号館前への移転に際し、ソフィア会としてその修復費を負担。
- 上智学院(総務局長以下)とソフィア会(会長以下)の連絡会議を定例化。業務執行ベースの課題・解決策及び活躍する卒業生情報の連携と共有。
- 「ソフィア会奨学金のための募金」を2020年2月1日に開始。
- 学生のために長期的安定的に奨学金を支える「ソフィア会奨学金基金」の設置を決定。

### 3. オールソフィアンによる総合力の発揮

- 2022年度中に全学部・学科に学部・学科同窓会を設立することを目標に活動。
- 学部・学科同窓会連絡会を開催。
- 11月2日(土)地域ソフィア会代表48名が出席して、第1回地域ソフィア会代表者会議を開催。
- 9月27日～30日の4日間、ジャカルタ大会を開催。アジア各国ソフィア会から29名、日本からソフィアン41名、合計70名が参加。
- ソフィア会の会報「ソフィアンズナウ」(年2回)および同号外(年1回)の定期発行とメールニュースの定期配信。ソフィアンズナウ(No.187)は92,500部を発行、メールニュース最新号は41,292人、Facebookでは7,751人に情報を発信。
- ASFを5/26に開催、講演会企画の充実、金祝等祝賀会実行委員会との連携の強化等により、来場者10,700名と過去最高(2013年の創立100年時を除く)。
- ASCを12/13に開催、参加者は300名。参加者及びブース出展団体からの寄付の合計20万9,358円を、日本赤十字を通じバングラディッシュ南部難民支援に寄付。

- ソフィアンズカップゴルフ大会は当初予定した2019/9/9(月)が台風15号の影響で中止、11/29(金)に順延し86名参加。協賛金11万9,300円をソフィア会来募金に寄付。
- 講演会は「恩師に学ぶ」「経営者に聴く」「海外で活躍するソフィアン」を主テーマに様々な分野からソフィアンを招いて、大学と共催で開催。
- 卒業5年ソフィアンの集いを11月3日に実施し、101名が参加登録。新卒業生歓迎会を9月学位授与式の際にソフィアンズクラブ「ウェルカム・デイ」を開催。

### 4. ソフィア会の体制強化

- 事務局体制強化のための人員増を実施し、スタッフ全体のスキルの底上げに努力。
- 12月16日にソフィア会説明会を開催し、執行部門やASFへの参加候補者が参加。
- 金ルビー銀銅祝実行委員と常任委員との連携を深め、将来のソフィア会執行分部門への参画の働きかけを2020年から実施。
- 「行事の分類と会計処理」「懇親会費」「講師謝金」「常任委員会権限明確化」等細則の整備の実施。
- ソフィア会新役員体制発足1年後(2021年度)に、ソフィア会執行部門運営全般の見直しを行う。

### 5. ソフィア会の健全な発展に向けて安定した財政基盤の確立

- 2020年度の本格的な開始に向けた詳細プロセスの整備として、毎年9月末までに、その結果を事務局が財務委員長に報告(2020年9月の報告をもって整備完了)。
- 2019年春号のソフィアンズナウ送付時に維持会費の納入依頼のチラシを中止したことにより達成率は予算の約半分であった。今後は継続して納入依頼のチラシの配布、ソフィア会登録団体、過去の納入者への協力依頼等PRを徹底。

## ソフィア会専門委員会－新設と職務分掌の変更

赤字が新設委員会

委員会名称	主な変更点
総合調整委員会	「将来ビジョンの具体的な実施施策に関する役割」、「付随的な業務」を追加
総務委員会	課外活動支援などを学生支援・奨学金委員会に移管、ソフィアンズクラブに関する事項をソフィアンズクラブ委員会へ移管
<b>ソフィアンズクラブ委員会</b>	<b>総務委員会から独立し、専門委員会として新設</b>
財務委員会	「終身会費未納状況を管理する職務」を追加
広報委員会	「ソフィア会に関する外部メディアなどへの情報発信」を追加
事業企画委員会	「キャリア支援」を学生支援・奨学金委員会に移管、「各祝賀会実行委員会への支援」を追加
組織委員会	現組織委員会の役割の中で、「海外ソフィア会担当」を国際委員会に、学部学科同窓会担当を学部・学科委員会に移管し、地域(国内)と各種ソフィア会の担当とする。



# 誇りが持てる同窓会を目指して

## ——鳥居新会長に聞く

9月の秋季全国代議員会において、鳥居正男氏（1970 外独）が第11代ソフィア会会長に就任しました。コロナ禍で会長就任も半年ずれ込むという異常事態での新体制発足となりましたが、この状況下で鳥居新会長はソフィア会をどのようにかじ取りしようとしているのか、学生時代の思い出なども含めてお聞きしました。

### ◆新会長として、今後どのようにソフィア会をリードされますか。

ソフィア会は、母校のために貢献しようという気持ちを持った仲間のボランティア組織ですので、まずは楽しく、気分の良い会であることが何より大切だと思います。上智大学で学んでいる学生や卒業された同窓生が母校に誇りを持ち、上智大学が高校生にとっても憧れとなる大学になることを目指して、ソフィア会に何ができるかをみなさんと一緒に考え実行していきたいと思います。

### ◆ソフィア会も大きな組織になりました。

現在、会員数は約14万人で、海外や国内の各地域、学部学科、課外活動や企業、業種別など合計312の団体を持つ大きな組織となりました。会員のみなさんはこれらの団体をはじめ、その他上智大学の卒業生による同好会組織などが縦横のネットワークを通じてつながり、会員相互の親睦と大学への貢献を目的に活動をしています。同じ教育精神を学んだ上智大学の卒業生が「つなげよう、広げよう、深めようソフィアンの絆」というスローガンの元に、どこで出会ってもお互いに理解し合える強い絆があると考えています。ぜひみなさんも積極的にこのソフィアンのネットワークの輪に加わってください。

### ◆コロナ禍での、かつてない厳しい状況での新会長就任となりましたね。

私は、経験豊富な前戸川会長と違ひまして、まだまだソフィア会について勉強しなければならないことがたくさんあります。それに加えて、新型コロナウイルスの収束の見通しがまったく予測できない中、日本さらには世界がニューノーマルを模索しているという不安定な状況での新執行部の船出となりました。ですので、どうかみなさま方の力強いサポートをお願いします。

### ◆話は変わりますが、学生時代はどのように過ごされていたのでしょうか。

ドイツ語学科の学生だったのですが、課外活動はESSで最後は副会長を務めました。学生時代には、恩師である英語学科教授のフォーブス神父がご自分の持っているすべての時間を生徒のために与えている姿を見て、自分も他人のために尽くすことができる人間になりたいとの思いを持ち、今日まで社会人生活を送って来ました。それは上智大学の精神“Men and Women for Others, with Others”の実践につながります。

### ◆いわゆる学生運動が盛んな時代でしたね。

上智大学もロックアウトされ、学内にも入れない状況が続いていましたね。その中で私は学生会で代議委員会議長として、学生運動から大学を守ろうと、当時学生会会長だった和泉さん（和泉法夫氏＝第8代ソフィア会会長）などと活動していました。



鳥居正男（1970 外独）氏の主な役職  
ノバルティスファーマ株式会社取締役会長  
カントリープレジデント  
在日スイス商工会議所副会長、ドイツ語学科  
同窓会会長

その後社会人となってからもほぼ50年間無事に過ごしていただくことができたのは、ひとえに上智大学での学びのお蔭様と感謝いたしています。その母校のソフィア会の会長に任命されたことは大変光栄なことです。

### ◆会長は、ご家族がみんなソフィアンとお聞きしています。

そうなんです。わが家はソフィアンズファミリーでして、妻、息子夫婦、長女ともに上智大学の外国語学部で学ばせていただきました。大学には大変お世話になっているわけです。その意味で、今回母校への恩返し之机をいただきましたので、微力ではありますが、卒業生のネットワーク作りと母校のさらなる発展に全力を尽くしてまいりたいと思います。

委員会名称	主な変更点
募金委員会	「募金要請の深考と提案」を追加
国際委員会	組織委員会からの移管を受け「海外ソフィア会に関する事項担当」を追加
社会貢献推進委員会	NEXT100 特別委員会（時限）を発展的に解消して当該委員会を新設
学生支援・奨学金委員会	奨学金等学生支援特別委員会（時限）を発展的に解消し新設、総務委員会、事業企画委員会から業務の移管を受ける。
学部・学科同窓会委員会	学部・学科同窓会特別委員会（時限）を発展的に解消して新設、組織委員会から業務移管を受ける
オリンピック・パラリンピック特別委員会（時限）	2021年度委員会活動終了に当たりレガシーの確立や準備作業を開始

奨学金等学生支援特別委員会、学部・学科同窓会特別委員会は、この変更をもって解散

オンライン開催

## ソフィアン国家公務員と話そうー日本、世界で活躍する先輩たち

10月21日、今年もソフィア会の後援により、シンポジウム「ソフィアン国家公務員と話そうー日本、世界で活躍する先輩たち」（主催：上智大学国際関係研究所）が開催されました。本企画は、2016年以降毎年、藤崎一郎元駐米大使（元上智大学特別招聘教授、国際戦略顧問）および本学出身の各省庁幹部職員を招き、外交官・国家総合職等を目指す学生・卒業生を支援してきたもので、今年度はコロナ禍の影響により初のオンライン開催となりましたが、当日は70名以上の学生・卒業生が参加しました。

鳥居正男ソフィア会会長の挨拶から幕を開け、藤崎元大使の基調講演では「優秀な人材であれば出身大学は関係ない。上智大生にはぜひ総合職を目指して欲しい」と語られました。その後、今西淳東北大学公共政策大学院教授（前大臣官房儀典総括官、1993 法法）、小野健アジア大洋州局北東アジア第一課長（1997 法法）、梶原徹経済局サービス貿易室長（1997 法法）、安藤史哲国際法局社会条約官室首席事務官（2008 法法）から、それぞれの学生時代の経験を交えて

志望動機、国家総合職と専門職との違い、外交政策の立案過程や日本を代表して外交交渉を行う仕事の醍醐味などを中心に、分かりやすく説明が行われました。

続いて、主催者の安野正士国際関係研



基調講演を行う藤崎元大使

究所所長の挨拶、本年度国家総合職内定者の中村美理さん（2021年卒業見込み）

も交えた情報交換・交流会に移り、同窓の先輩・後輩間ならではの熱心かつ活発な質疑応答の場となりました。

最後に、藤崎元大使が「同じ志の仲間と一緒に切磋琢磨することが重要」と総括されました。これを受けて、今年も藤崎元大使が本学の特別招聘教授だった際に発案され、ソフィア会が支援している「国家総合職関心者勉強会」には多くの学生からの参加申込みが届いています。

本後援は「ソフィア会の将来ビジョン」における「3. 母校への貢献・現役学生支援の強化・拡充」－「国際社会で活躍する人材の就活支援」を実施するものです。

（なお、卒業生（30歳未満）の勉強会への参加希望者は、koumuin@sophiakai.gr.jp宛、①氏名、②卒年・学部学科を明記の上、申込みください）



来年度国家総合職内定者を囲んで

## ジョージタウン大学研修学生と海外ソフィア会との交流イベントを開催

国際委員会は8月22日（土）午前10時（日本時間）から、ジョージタウン大学研修の学生団体であるSGC（Sophia Georgetown Student Connection）の学生と、ニューヨーク・ソフィア会、ワシントンDCソフィア会を結び、Zoomによる情報交換会を行いました。当日は各海外ソフィア会からそれぞれ3名（合計6名）、学生は7名（うち1名は授業のオンライン化に伴い一時帰国中の台北から）、そして国際委員会の委員も加え大人数での交流となりました。

情報交換会は2つのBreakout Roomに分かれ、各自の自己紹介のあと、①GAFAMやTOYOTAなど日米トップ企業の比較、どういふ点が強みであるか、②コロナ禍におけるテレワークの影響、利点と弱点、③コロナ禍後の日本人の米国での就職はどうなるか、などのテーマで活発な意見、質問が寄せられました。

この情報交換会は、これまでソフィア会が支援してきたSGCによる学生派遣がコロナ禍の影響で中止となったため、その経緯とその後学生たちの活動状況を報告し、各ソフィア会相互の情報交換の場にしたいとの願いのもとに企画したものです。今までお世話になっている両ソフィア会に対して、過去に派遣した学生たちからぜひお礼を兼ねた近況報告をしたいと言う強い要望もあり、実現しました。



当日は、時間が足りないと感じるほど各ソフィア会の会員からは積極的な意見が寄せられ、また生の情報に触れることができた学生にとっては今後の勉学・志望を考える上での貴重な機会となったと思われます。国際委員会は、コロナ禍後も見据えて研修再開へのステップとなるべく、今後とも両ソフィア会との交流を深めたい考えです。

## オリンピック・パラリンピック支援特別委員会主催オンライン・イベント 「オリンピック・パラリンピック報道は何を伝えるべきか」 そして「上智大学と1964年東京オリンピック」

オリンピック・パラリンピック支援特別委員会は12月に、いずれもソフィアによる2つのオンライン・イベントを企画しています。シンポジウムと講演会で、両方ともオンライン会議システムZoomによるオンライン開催です。

まず、12月4日(金)に行われるのは「オリパラ メディア ソフィアーズ シンポジウム」(同日17:20～19:00)。「オリンピック・パラリンピック報道は何を伝えるべきか」をテーマに、オリパラ報道に影響を持つ卒業生に、スポーツを通じて差別のない平和な共生社会の構築を目標に掲げるオリンピック・パラリンピックをどのように報道してゆかかを考えを聞き議論を行います。

パネリストは竹内浩氏(共同通信論説委員、IOCプレス委員、JOC元理事、1977外独)、山本修司氏(毎日新聞オリンピック・パラリンピック室長、1986文新)の2人。司会は、師岡文男上智大学名誉教授(「オリパラ概論」コーディネーター、1976文史)。

もうひとつ、12月19日(土)に行われるのはオンライン講演会「上智大学と1964年東京オリンピック」(同日18:00～19:30)。上智大学発展の契機となった1964年東京オリンピックへの上智大学の協力と学生ボランティアの活躍を当時の資料・データに基づき「大学とオリンピック」(中央公論新社)の著者小林哲夫氏(「大学ランキング」朝日新聞出版 編集長)に講演いただき、当時、学生ボランティアとして活躍した上智大学卒業生とのトークショーを行います。ゲストは、1964東京オリンピックでフランス語通訳ボランティアをされた庄司和子氏(1965外仏)。これも司会は師岡名誉教授です。

シンポジウム、講演会とも上智大学卒業生・教職員・学生が対象で、ソフィア会Webサイトからのエントリーが必要です。



講演会の講師、小林哲夫氏

## 国文学科同窓会が設立 ソフィア会の学部・学科同窓会は19に

文学部国文学科同窓会が、ソフィア会の協力を得て設立されました。その後、大学院同窓会の設立が承認されるなどして、学部・学科同窓会は19となりました

国文学科は1959年に設立され、2020年に至るまで3,000人以上の卒業生を世に送りだしてきています。今年度の設立総会開催を目指して準備をしてきましたが、コロナ禍の影響により、2020年の開催が難しくなり、紙面を借りての報告となりました。

なお、国文学科同窓会会員は上智大学文学部国文学科の学部および大学院を卒業した方全員に資格があります。

会は、会員相互の交流と親睦、また上智大学国文学科、国文学会における教育、研究の発展に貢献することを目的とします。活動内容としては、講演会、公開講座、交流会、親睦会などの開催、会員、

現役学生への支援活動を計画しています。また、ソフィア会の学部・学科同窓会を通して他学部・他学科同窓会とのイベントの共催、後援などを通し、相互交流に努めていきたいと考えています。

会長以下の役員は以下の通り。

会 長	湯浅 茂雄	1975 年卒
副会長	笠間 貴美江	1968 年卒
	真下 クルミ	1973 年卒
顧 問	長尾 直茂	1987 年卒

なお国文学科同窓会は、国文学科卒業で現住所をソフィア会に登録していない方に、下記URLからの登録を呼び掛けています。

<https://idb.sophia.ac.jp/sophiaDBunion/applyEditInfo/>

## 被顕彰者選考委員会の代議員選出委員を募集

ソフィア会は2013年の上智大学創立100周年を機に、ソフィア会に顕著な貢献あった会員を顕彰する顕彰制度を設け、第1回の2013年に15名、第2回の2016年に14名、第3回の2019年に13名の方々を顕彰しました。

これに続き、第4回となる次期被顕彰者選考委員会設置のため、



2019年のソフィアーズ顕彰

2021年の春季全国代議員会で代議員から10名の委員を互選します。そこで自薦・他薦を含めて

- ① 推薦者または候補者の氏名
- ② 推薦者または候補者の卒年
- ③ 推薦者または候補者の卒業学部・学科
- ④ 他薦の場合には推薦人の氏名・卒年・卒業学部・学科

を記載の届け出書をソフィア会事務局([info@sophiakai.gr.jp](mailto:info@sophiakai.gr.jp))にお送り下さい。様式は自由で、届け出期限は2021年2月末です。

次期の被顕彰者選考委員会も規約に基づき、代議員互選の10名と常任委員会委員の5名の計15名で構成します。被顕彰者選考委員会は顕彰される会員の選考検討を行い会長に報告、常任委員会の場で顕彰者を決定し、2022年秋に顕彰式を行う予定です。



# ソフィアンの広場

現在ソフィア会に登録している312の団体が、ソフィア会のWebサイト（ホームページ）に投稿される記事・写真は半期でおよそ60～70件。活動が活発な団体は複数の記事を投稿されるので、1団体1記事として、毎回50～60件を「ソフィアンの広場」で紹介しています。ただ、今年になって新型コロナの蔓延に伴って各団体の対面イベント開催にブレーキがかかり、文字通り投稿記事が急減しました。

こんな状況の中でも、いち早くニューノーマルに適應してオンラインで会員の絆をキープしている団体がいくつかあります。特に活発なのがポルトガル語学科同窓会と上智町屋セツルメントOB会。

ポルトガル語学科同窓会のウェビナー（オンラインセミナー）の

開催報告の内容は海外で活躍している外葡OBの

体験談や現地事情の報告と質疑ですが、スピーカーはただ自由におしゃべりをするということではなく、事前にかんりの資料を作って画面で視聴者に見せながら自身の体験を語り、事後に質問を受けるといった形式で、限られた時間を有効に使っています。内容はかなり刺激的で、特に将来海外での活躍を目指す学生たちには必見の内容となっています。

ウイズコロナが長期化の様相を呈してきた現在、各団体が会員同士の絆を保つ一つの方法として紹介します。なお、これらウェビナーの詳細はYouTubeで閲覧できますので、ソフィア会Webサイトに掲載されている投稿記事を参照してください。

## ウェビナー モザンビークより Boa tarde !

ポルトガル語学科同窓会

開催日:2020.07.23

オンラインイベント第一弾は木村 元さん（1983年卒）。モザンビークの基本情報、社会、政治、経済、経済協力など広く資料を用意されて現状報告をしてくださいました。



た。現職の大使でいらっしゃるため、新型コロナの感染防止のため長期間公邸に待機を強いられておられるようです。音大を卒業したばかりの若い女性がJICAから派遣されてきて、“今しかできないから”と楽器の扱いを現地の子供たちに教える姿に感動されたよして、視聴している方も感動をいただきました。



た。現職の大使でいらっしゃるため、新型コロナの感染防止のため長期間公邸に待機を強いられておられるようです。音大を卒業したばかりの若い女性がJICAから派遣されてきて、“今しかできないから”と楽器の扱いを現地の子供たちに教える姿に感動されたよして、視聴している方も感動をいただきました。

## ウェビナー メキシコより Bom dia !

ポルトガル語学科同窓会

開催日:2020.08.29

姫岡 健さん（1986年卒）は日本を代表する食品会社に勤務して34年。うち17年以上が海外勤務で、ブラジル、ペルー、ハンガラデッシュを経て現在はメキシコの現地法人に勤務されています。メキシコは日本とほぼ同じ1億2千万の人口を持つ国ですが、ラテンアメリカよりも常に米国に顔を向け、強い影響を受けています。姫岡さんは「外を見る（世界の国々を知る）、外から見る（日本を見つめる）」ことの大切さを常に心がけておられます。



た。現職の大使でいらっしゃるため、新型コロナの感染防止のため長期間公邸に待機を強いられておられるようです。音大を卒業したばかりの若い女性がJICAから派遣されてきて、“今しかできないから”と楽器の扱いを現地の子供たちに教える姿に感動されたよして、視聴している方も感動をいただきました。



た。現職の大使でいらっしゃるため、新型コロナの感染防止のため長期間公邸に待機を強いられておられるようです。音大を卒業したばかりの若い女性がJICAから派遣されてきて、“今しかできないから”と楽器の扱いを現地の子供たちに教える姿に感動されたよして、視聴している方も感動をいただきました。

## ウェビナー 日本より Boa noite !

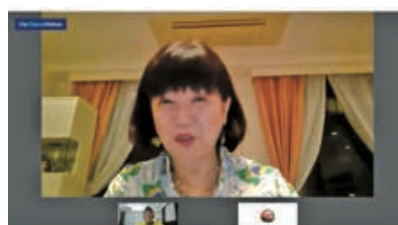
ポルトガル語学科同窓会

開催日:2020.09.26

第三弾は久保田勝美さん（1987年卒）。「人が愛着を持てる日本を代表するグローバルブランドを世界に広める」を理念に、これまで日本を代表する4つのグローバルブランドで10か



国（ブラジル、アメリカ、メキシコ、シンガポール、ベトナム、ハンガラデッシュ、ロシア、台湾、フィリピン、タイ）に計30年以上勤務するという稀有な体験を語ってくれました。結局君は何しにブラジルにきたの？という知り合いからの度重なる質問やWork-Life Integrationなど大切なことを教えてくれます。



## ウェビナー セツルメントと私

上智町屋セツルメントOB会

開催日:2020.08.01

ウエストヴァージニア州立大学に勤務されている小池一成先生（1974外英）の上智町屋セツルメント活動の回顧談。上智入学後にクラブ活動を探していた折に1年先輩の吉田研作先生からお声をかけられたのが発端という。具体的な活動についてはミヘル神父さん



さんのご指導をいただき、上智卒業間際には人生のお守りとして洗礼を受けられた。テネシー大学留学時代の専門は言語障害。ミヘル神父さんと吉田先生の影響が大きかった模様。ただ、町屋セツルメントは小池先生などの活動が最後となり、現在は昔のように組織としての活動は行っていないとのこと。

南米の内陸国パラグアイに宣教師として赴任した神言修道会の品田 豊神父さんの体験談。スペイン語の知識はゼロで現地の子供たちから石を投げられてスタートして以後17年を過ごした。差別される人々の心の痛みを当事者として理解できたのが、宣教師としての生き方の原点だったそうです。

圧巻は、ジャングルの民である先住民アチェ族との出会い。彼らは聖書を手にしたことはなかったが、神によって造られた生き物を大切に、神を信頼し、すべてを委ね、神との理想的な関係を保って生きてきたという。しかし現在ではアチェ族の生存者は千人にも満たないと。



## 海外ソフィア会 44か国65都市に！

### UAEソフィア会

開催日：2020.04

UAEでも新型コロナ蔓延により外出や集会は自粛になっていますので、今回はオンラインでの懇親会を開催しました。各自、家で好みの飲み物を用意し、家族も時折参加して大変盛り上がりしました。



### アイルランド・ソフィア会

開催日：2020.05.23

Zoomで各地のメンバーを繋いで、互いの無事を確認し合いました。ダブリン市内、キルデア、ウィックロー、またアイルランドだけでなく日本やアメリカのフロリダ在住の「アイリッシュ・ソフィアン」が集まって近況を報告していました。



### ベルギー・ソフィア会

開催日：2020.07.19

昨年が続いて、BBQを栗田の庭にて開催。若い方が新しくカミングアウトくださり、ご家族連れで、にぎやかな夏の午後を楽しみました。ベルギーには「隠れソフィアン」がまだたくさんいることと思います。コロナによる閉塞的な世界の空気の中でも、ソフィアンの皆さんが楽しく有意義につながれますように。



### 英国ソフィア会

開催日：2020.09

ケンブリッジ近くのフォードダムアビーにある、堂島酒醸造所にお邪魔しました。ここは大坂の酒造メーカーが英国に設立した酒蔵で、広大な敷地に建てられましたが、いずれは「SAKE」ならびに日本文化センターとする壮大な開発計画の一部です。



### ニューヨーク・ソフィア会

開催日：2020.05.29

Zoomで第56回総会を開催。約20名がスクリーンの前にお気に入りのドリンクを用意して、みんなで久々の乾杯をしました。40分の時間制限のなか、ロイターの我謝京子さん（1987外西）の司会で、会計報告、新役員紹介、乾杯、参加者の自己紹介が行われ、母校の学生支援のため、1,000ドルを寄付することも決定。



## 国内ソフィア会 46都道府県76団体

### 埼玉西部ソフィア会

開催日：2020.08.27

厳しい残暑の中、COVID-19の予防にも注意を払いつつ参加者11名にて川越カントリークラブで開催しました。毎年ご参加くださる最高齢の赤塚五男さん（1963外英）は今回も元気満刺とプレーされ、お手本を示してくださいました。



### とち帯広ソフィア会

開催日：2020.10.09

総会を開催しました。コロナ禍での開催でしたが、今回は十勝出身の石澤良昭元学長も参加いただき、大学の現況や取り組みなどのお話をお伺いしました。年に一度の集まりを楽しく過ごしました。



## 参加者、参加校も拡大

### 日本語スピーチコンテスト「第2回ザビエル杯」を開催

ソフィア会は上智大学の協力のもと、日本で学ぶ留学生が参加する日本語スピーチコンテスト「第2回ザビエル杯」を、12月5日（土）13:00～15:00にリモート形式・無観客で開催します。

ザビエル杯は上智大学に限らず日本国内大学への留学生を対象とした日本語スピーチコンテストで、年齢、日本滞在年数、日本語レベルは不問。①私の日本でのチャレンジ、②私の日本での発見、③私の日本への提案、の中からテーマを選択し、発表時間は一人5分となっています。受賞者には、ザビエル杯と賞金（1～3位）、特別賞、参加賞が授与されます。

このザビエル杯は大学の枠を越えた交流を目指し、上智大学に限らず日本の大学に留学している学生を対象としたコンテストで、今年は第2回目。昨年初めての試みとして実施し、今年も各大学から大きな関心を寄せられました。今回は、昨今のコロナ禍でコンテスト開催の形式は変わりますが、このような事態でも日本に留まり勉学を続ける留学生に日本語学習の成果を発表する場として、またより一層の国際的文化交流を実現できる場として今年も企画しました。

昨年は趣旨に賛同いただいた青山学院、立教大学、獨協大学、聖心女子大学からの参加があり、上智とともに5大学で実施。今年当初最大15名で開催する計画のところ、最終応募者数が18名（上智大学からは8名）と参加大学がさらに増え、早稲田大学、東京外国語大学からの参加も見込まれています。また、立教大学の留学生が中国北京からオンライン参加する予定です。コロナ禍によりオンラインでの開催となりましたが、オンラインだからこそ実現できる新しいスピーチコンテストになると、このイベントを担当するソフィア会国際委員会は期待しています。



第1回ザビエル杯の授賞式

### ザビエル杯の狙い

ザビエル杯は、日本で学ぶ諸外国からの留学生に、日本語による自己表現の機会を通じて学際的なネットワーク作りを目指し、留学生同士、留学生と在学生の交流の場を提供。また持続的にお互いの能力を高め、“他者とともに他者のために”広く社会に貢献できる人財を育成するという目的があります。

ソフィア会では以前より、各留学生のお国自慢や日本での経験をテーマに日本語のスピーチコンテストを開催し、参加した留学生たちの隠れた能力に驚きと感動を体験してきました。しかし、留学生を受け入れている多くの大学でも同様なコンテストが実施されていることから、多様性や違いの受け入れが問われる現代社会にあって、大学の枠を超えた国際的な文化交流を実現してゆく場として、このコンテストを企画したものです。

## 第29回コムソフィア賞の授賞式と記念講演は1月26日です

ソフィア会とマスコミ・ソフィア会は第29回コムソフィア賞の授賞式および記念講演会を1月26日（火）18:00からオンラインで行います。今回の受賞者は、外国人留学生への日本語教育に長年貢献した江副隆秀さん（1975文新、新宿日本語学校の理事長兼校長）。受賞者決定は今年春に発表していましたが、コロナ禍で授賞式が遅れていたものです。授賞式と記念講演は「zoom ウェビナーシステム」で行います。

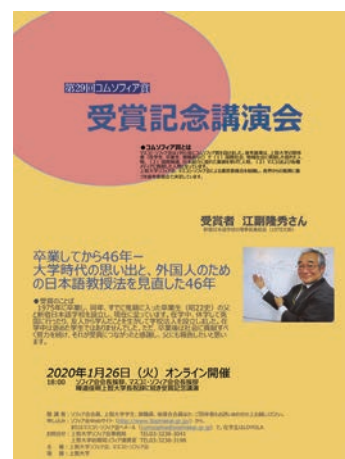
### 記

開催日時：2021年1月26日午後6時から約1時間

式典：授賞式・賞状と副賞の授与、ソフィア会会長、マスコミ・ソフィア会会長挨拶、曄道佳明上智大学長祝辞に引き続き、受賞者・江副隆秀さんの受賞記念講演

授賞理由：外国人留学生への日本語教育に長年貢献

選考理由：学校法人新宿日本語学校は1975年に卒業したばかりの隆秀氏と父・隆愛氏（1947文史）、母の勢津子さんにより設立。国内に500校前後とされる日本語学校の中でも、学生定員720名、教員数56名とその規模はもとより、教育方法でもその先進性、多様性、独自性を誇り、トップリーダーとしての位置にある。江副隆秀さんは、外国人留学生への教育のほか、専修・各種学校協会の役員や国内外での学会で日本語についての論文を発表するなど、広い分野で社会貢献の実績をあげている。



受賞者におくられる賞状と副賞（細川護熙氏作の向付）

300を超えるソフィア会の登録団体から、特に“旬”なところを紹介するこの FOCUS。今回フォーカスするのは上智大学創立 100 周年を機に発足した「NEXT100 委員会」。このプロジェクトを発展的に解消して専門委員会となった社会貢献推進委員会、そしてもうひとつは NEXT100 から独立した SPEECC を取り上げます。

## 「社会貢献推進委員会」活動スタート！

2014 年から 6 年間に亘って活動してきた「NEXT100 委員会」が、2020 年 10 月から「社会貢献推進委員会」として新たにスタートすることになりました。

社会貢献推進委員会は、上智大学の教育理念である『他者のために他者とともに』に基づき、大学、学生、ソフィアン、ひいては社会に貢献、支援することを念頭に活動をしていく目的を持ったソフィア会常任委員会の専門委員会です。

社会貢献といってもその範囲は広く、具体的な活動はまだ定めら



健康福祉グループの活動（2019 年の ASF から）

れていませんが、まずは NEXT100 委員会で行ってきた人のため、社会のための活動”を継続していきます。

継続していく活動は以下の 4 つ。

- ① アフリカ マラウィの人々に学校給食支援をする活動
- ② これからボランティア活動を始めるソフィアンが何かヒントを見つけたり、互いにつながれたりするような場を提供する活動
- ③ 健康や福祉に関心あるメンバーがあらゆるライフステージの課題に取組み、情報交換をして、まずは身近な人たちの健康づくりに役立つための活動
- ④ 仕事、支援、ボランティアなど何らかの形で障がい者に関わるソフィアン同士のネットワークを作り、情報交換しながらできることを拡げていく活動

これら以外の新たな活動は今後、ソフィア会として何ができるかを検討し、実現していきますが「最初は小さな点や線が存在であっても、互いが連携していずれ大きな面となり、世界の中で平和と人々の幸せに貢献することを目指します」という「NEXT100 宣言」（2013 年）の精神を引き継いでいきます。

## NEXT100 から誕生した「SPEECC ソフィア会」

SPEECC(スピーク)はこの 2020 年秋、NEXT100 プロジェクトのワーキンググループから新しく各種ソフィア会へと移行しました。

SPEECC の正式名称は Sophia Practical English Education & Communication Circle。英文法がスピーキングに活かせるようにという願いをこめて命名したもので、コミュニケーションのための英文法を推進する活動を行っています。

メンバーは現在 20 数名で、卒業年度・学部・学科も異なりますが、「英文法は日常会話に役立つし、また役立てたい！」という共通の思いでつながっています。

具体的な活動は大きく 2 つあります。

- ① Facebook や Twitter などの SNS で英文法・語法のお役立ち情報をユニークな形で発信する
- ② ASF、ASC、目白聖母キャンパスの集いなどのイベントに参加し、英文法の面白さを伝える

以上のうち①は、英文法・語法の究極 2 択クイズ。街で見かける変な英語と正しい表記例の紹介、英語の対話文ジョークを、2 日おきに Facebook に投稿したり twitter でフォローしたりしています (<https://www.facebook.com/SPEECC/>、@SPEECC\_Sophia)。②は英文法をゲーム仕立てにした「英文法祭り」を開催し、また“せいぼじゃばん”とのコラボで英語チャットのできる場として「English Café」、 「English Tearoom」をオープンしています。

SPEECC は、アカデミックな英文法を研究する団体ではなく、あくまでもコミュニケーションの立場から英語を考えるグループです。

年に 5、6 回四谷に集まって（最近では新型コロナのためオンラインですが）、クイズの予想問題を検討し、イベント企画を考え、そのあとの懇親会で親睦を深めています。

活動が始まって 5 年になりますが、知るに値する正確な情報を届けようという姿勢は変わりありません。顧問の元英文科教授の John Yamamoto-Wilson 先生の厳しいチェックを受けた英語は、私たちの誇れる財産だと自負しています。

AI が発達し、やがて自動翻訳が当たり前時代が来ても、人と人のつながりにコミュニケーションは欠かせません。コロナ禍に置かれた今、その重要性を特に実感します。英文法を身近に感じることで、より充実したコミュニケーションを楽しむことができると信じています。

まだまだ少人数のサークルですが、さらなる発展に向けてみなさま方の温かいご支援を頂ければ幸いです。また新メンバーも随時募集中です。活動（特に SNS 発信）に興味がおありの方は、ぜひ上智大学ソフィア会を通じてご連絡下さい。一同お待ちしております。



## 2020 オールソフィアンのクリスマス Net de ASC 2020



藤島さん(左)と立石さん

### ～共に祈ろう、世界のソフィアン～

今年のオールソフィアンのクリスマスは、オンラインで開催します。12月11日(金)の18:30～20:30、みなさんの、それぞれの場所でご参加ください。コロナ禍でもかえって距離を超えてつながり、祈りのうちにひとつになってクリスマスをむかえましょう。

今年のプログラムの概要をお伝えします。

第1部は、祈りの場(ソフィアンの祈り)。

上智大学ハンドベルクワイアによる聖歌「あわれみの神」の演奏に続き、角田佑一神父による福音書朗読とクリスマスメッセ

ジ。共同祈願ではサニー・スプリングーさん(ニューヨークソフィア会会長)、中島彩華さん(カトリック学生の会会長・神学部神学科3年生)、中村由紀夫さん(函館ソフィア会会長)、前嶋和弘先生(総合グローバル学部長)、田中学さん(ASC実行委員、大阪在住)と、国内外各地のソフィアンが参加。

第2部は、懐かしい先生や、おなじみの出演者の心安らぐ演奏をお送りします。ソフィア会会長挨拶に続き、上智聖歌隊を皮切りに、立石一海さん(1995文新、ピアノ)、藤島新さん(1970外英、ヴォーカル)、ガラルダ先生(ギター)、そして新妻聖子さん(2003法国、ヴォーカル)とソフィアンの著名な歌手、演奏家が登場。最後は全員参加のクリスマスソング斉唱でフィナーレを迎える、というスケジュールです。ご家庭で、職場で、各々の場所で、お気に入りの飲み物片手にご参加ください。



## SOPHIA 未来募金および維持会費へ継続ご支援のお願い

卒業生のみならず(ソフィア会分を含む)からは、これまで SOPHIA 未来募金に対して合計8,159万円の寄付をいただきました。このうち、ソフィア会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急学生支援として2020年5月に1,000万円、同7月に5,000万円の計6,000万円の寄付を実施しました。

しかし、冬場に入り、再び全国的に感染者数の増加が予想される中、学生が置かれている生活・修学状況は非常に厳しいものがあります。引き続き会員皆様のご支援をお寄せいただきますようよろしくお願い申し上げます。

■ SOPHIA 未来募金(使途指定:ソフィア会奨学金基金のため)

2019年度からスタートした「ソフィア会奨学金制度」の財政的基盤を支えるため、本年8月にソフィア会から1億円を SOPHIA 未来募金(使

途指定:ソフィア会奨学金基金のため)に寄付を行い、2020年度中の「ソフィア会奨学金基金」の立ち上げを目指して学院側と準備を進めております。今般、1億円の寄付に対して、上智学院のサリアガスティン総務担当理事より鳥居会長に感謝状の贈呈が行われました。

■ ソフィア会維持会費(運営協力費)

本年度はこれまで、474名の会員の皆様に合計285万円のご厚意をいただきました。ソフィア会維持会費(運営協力費)は、ソフィア会全体運営に係る諸費用に充当させていただきます。



## 「現役学生を支援!もう1枚のクレジットカードで!」 ～ソフィアンズカード、お申込み受付中～

ソフィアンズカードは、ソフィアの鷲のマークが入ったデザインで、卒業生が持つことができるクレジットカードです。

ソフィア会ではクレジット会社と提携して、還元される手数料を奨学金、課外活動支援など現役学生を支援する目的で上智大学に寄付しています。上智を担う後輩たちを応援する意味で、ぜひこの機会にソフィアンズ



カードにご加入ください。現在、DCカードとUCカード(ソフィア会事務局)がございませぬ。申込み書の請求はこちらから。

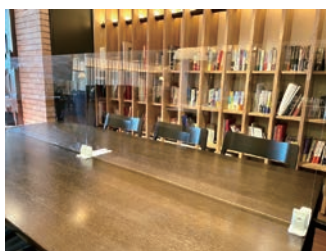
<http://www.sophiakai.gr.jp/card/index.html>

「ソフィアンズカード」で検索。



## 事務局便り

冷え込みが厳しくなってきたキャンパス構内は、少しずつ学生の姿を見かけるようになってきました。ごく僅かな対面授業、図書館・パソコン教室の活用など、休日の課外活動も含め、ウイズ・コロナ禍のライフスタイルを模索中でもあります。来年の学位授与式・入学式は通常の対面開催(一部制限有り)が予定されており、今後の状況を踏まえながらも、日常の大学の姿に早く戻ってほしいものです。



ソフィア会主催のイベントは、(ゴルフを除いて)まだまだ対面は叶いませんが、行動制限が長期化する中で、各登録団体では感染防止対策を取りながら工夫をこらした対面開催を徐々に再開しつつあります。今年度延期となった卒業周年祝典についても来春に向けて開催を検討できる段階になりつつあります。現在閉館中のソフィアンズクラブも、多少の制限はございますが、卒業生が利用できるよう準備中です。

一方で各種のオンライン開催で行われるイベントは、これまで参加できなかった地方や海外、及び多忙なソフィアンの方々に参加しやすくなった側面を見せました。これは今後の新しい同窓会活動に継続されるものと思われまふ。

写真は飛沫防止のアクリル板を設置したソフィアンズクラブの机。

## 訃報(2020年春～2020年秋)

※敬称略

6月13日逝去	NEMESHEGYI PETER	上智大学名誉教授(元神学部教授)
6月19日逝去	JORG MAUZ	上智大学名誉教授(元外国語学部教授)
6月25日逝去	PEREZ VALERA EDUARDO JOSE	上智大学名誉教授(元文学部教授)
7月3日逝去	大西 博	上智大学名誉教授(元経済学部教授)
8月16日逝去	Br. フランシスコ・マルコ	上智大学元職員
9月6日逝去	DEEKEN ALFONS	上智大学名誉教授(元文学部教授)
9月7日逝去	高橋 浩爾	上智大学名誉教授(元理工学部教授)
9月26日逝去	藤井 昭彦	上智大学名誉教授(元理工学部物理学科教授)
10月7日逝去	小林 一宏	上智大学名誉教授(元外国語学部教授)
10月24日逝去	加藤 剛	上智大学理工学部情報理工学科准教授

## ソフィア会広報委員会

宍戸周夫(1971法法)、松本明子(1983文史)、風間烈(1965外仏)、神山恭生(1972理物)、住谷史雄(1985法法)、金谷春美(2003外葡)、船津桂(2006法国)、垣本絵美子(2017院前総心)